

哲 學 研 究

第 三 卷 第 三 冊

第 二 十 四 號

大 正 七 年 三 月 一 日 發 行



大正五年四月六日第三種郵便物認可
大正七年二月二十一日出版(全上一回一日發行)

輪廻轉生と解脱……………齋藤唯信

極限概念としての文化價值……………法學博士 左右田喜一郎

獨逸唯心論に於ける哲學的認識の問題(完結)

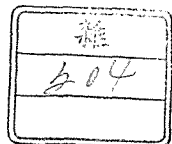
……………文學士 田邊 元

神秘主義の爲に……………故文學士 岡本春彥

彙報 新著紹介……………

京 都 帝 國 大 學 文 學 科 大 學 內

京 都 哲 學 會



京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一、委員(若干名)京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
 - 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

書記

文學博士	波多野精一
文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	植田壽藏
文學士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴方治	

本書は斯界の泰斗石川理學博士が學界の要求を察し人間の進化をば各種の方面より詳述せられ大日本學術協會の手によりて刊行せられたものである。我等は博士が公私多忙、身を以て、尙零細の時間を集めて一般讀書界のために本書を執筆せられたことに對しては無限の感謝を捧げざるを得ない。

本書は緒論の外、章を重ねる二十一、興味ある挿繪百三十餘個頁數四百五十四、外に索引十二頁がある。前半に於ては先づ人間進化の事實を確證せんとし、最初に人體の構造を論じて現今の人類の特徴を明にし、次ぎに之を現存せる脊椎動物と比較して人類の他の脊椎動物と類縁あることを確證し、更に之を動物及び人類の個體發生並に系統發生の事實に尋ねて其の然る所以を益々深からしめてある。精神的方面に於ても進化の事實の認むべきものありとし、類人猴の精神的動作、向性、本能、記憶意志及智能につきて興味多き敘述がある。

後半に於て著者は進化の事實を説明せんと企て、細胞分裂、受精、變異、遺傳等の諸學の知識に基き進化の起因を闡明せんとし、ダーウイン、ラマルク、ワイスマン、メンデル、ドワブリース等諸家の學說を擧げ殊にワイスマンの學說を詳論してその企圖を貫徹せんと試みられて居る。

末章に於ては將來の人間を論じて、今後の人類の進化の方向は「身體的方面に於けるよりも、寧ろ第三紀の終り頃にサルから人間が出来て來た時の言語の變化の方向であつて、之と共に意志の交換機關として最も必要な文字文章印刷等の進歩でなくてはならない」と論定せられて居る。更に著者は我國民の將來に論及して

「將來に於て吾の言葉を使用して居る人々と邦人の様に無茶苦茶な言葉を使用して居るものとの間には或、今日人類と類人猴との間に見る様な差違を生じはせまいかと心配するのである」と進化の過程に於ける言語の作用の極めて重要な所以を力説して我國民の國語及び國字問題に識者の注意を喚起せんと勸められて居る。

以上は本書の組織の主點と思つた所を記したに過ぎないがこの組織は幾多の興味ある事實によりて血と肉とを與へられて居るから、讀み初めてから巻を終るまで手を措かなかつたといふも過言でない。章を退ふも、或は抜き讀みするも共に興味を覺える稀に見る近來の好著である。發行所、東京市小石川區竹早町三十七、大日本學術協會。定價金參圓(稻崎淺太郎)

寄贈雜誌

哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、人性、六合雜誌、東洋哲學、無盡燈、東亞之光、早稻田文學、新公論、内外教育、評論、小學研究、教育研究、教育學術界、教育界、教育時論、兒童、兵庫教育、静岡縣教育、岐阜縣教育、愛知教育雜誌、長崎縣教育會雜誌、都市教育、信濃教育、宮城教育、愛媛教育、

前 號 目 次

ヤーヅィナブルキヤの見たる希臘輪廻思想……………文學士 本田 義英 獨逸唯心論に於ける哲學的認識の問題……………文學士 田 邊 元 ミカイロヴスキの社會學說の創始的價値(承前)……………米田 庄太郎 精神物理學の職分に就いて……………文學士 岩井勝二郎	……………文學士 本田 義英 ……………文學士 田 邊 元 ……………米田 庄太郎 ……………文學士 岩井勝二郎
---	---

會 告

近時紙價暴騰致し之に加へて印刷製本費又共に増額致し候爲め發行所の要求に依り遺憾ながら來る四月以降當分の中本誌定價並に會員會費左の通り相定め候間右様御諒承被成下度此段廣告仕候也

定 價 一 册 金貳拾五錢 送料金一錢
會 費 半年分(前金) 金壹圓四拾錢

大正七年三月一日

京 都 哲 學 會

「哲學研究」定價改定廣告

本誌「哲學研究」の儀紙價暴騰印刷費等騰貴の爲め來四月號より左の通り定價改定仕候間此段購讀者各位に謹告仕候也

一 册 金貳拾五錢 送料金一錢
六 册(前金) 金壹圓五拾錢 送料不要
十二册(前金) 金 參 圓 送料不要

大正七年三月

「哲學研究」發行所 東京寶文館

會

告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
 文科大學内
 京都哲學會
 振替口座大阪參〇六六參番

價定

廣告料

冊	數	一定	價	郵	稅
一冊	冊	金貳拾錢	金壹	壹	錢
六冊(前金)	冊	金壹圓貳拾錢	不	申	受
十二冊(前金)	冊	金貳圓四拾錢	不	申	受
一頁	金拾	圓	半頁	金六	圓

定規文註

◎會員にあらざる識讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
 ◎前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正七年二月二十七日印刷納本
 大正七年三月一日發行

第二十四號 第三卷
 第三册

京都帝國大學文科大學内

編輯者

京都哲學會

右代表者

寶嚴方治

發行者

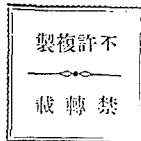
大葉久吉

印刷者

青柳十一郎

印刷所

秀英舎第一工場



發行所

東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番)

寶文館

發賣元

東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目

寶文館

賣捌所

(東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

● 新 春 必 讀 之 名 著 ●

翹望されたる著者の講演に基ける新著は發表せられたり

東京帝國大學
文科大學講師

文學士松浦 一先生著

(最新刊)

生命の文學

布裝全一冊

定價金壹圓六拾錢

送料金拾貳錢

本書は著者が『文學の本質』發表以來、最近東京帝國大學にて爲せし文學概論の講演に基けるものにして、無量無邊の生命を文學の神髓より探り來り、生と死との争鬪の巷に眞に生くべき道を示せり。第一講貴族的か平民的か。第二講「我」の文學的實現の綱下に深遂極みなきの秘を説けり。敢て斯學研究者の一閱を仰ぐ。

文學と人生との眞義を此の尊き文學に求めよ

京 東 ● 寶 文 館 ● 大 阪